

# 英語学習の「モチベーション」を高める eラーニング教材開発の試み

川越栄子\*1

Email: kawagoe@tr.kobe-ccn.ac.jp

\*1: 神戸市看護大学・(大阪大学・神戸大学医学科非常勤)

◎Key Words 医療系学部, eラーニング, モチベーション

## 1. はじめに

外務省は2011年「医療滞在ビザ」の運用を開始し、メディカルツーリズムが日本の成長戦略として位置付けられ、海外から検査・治療のため訪れる外国人患者の数が急増することが予想される。

また世界から患者を呼び込むためには高い医療レベルが必要であり、医学研究のために英語は不可欠である。しかし世界トップレベルの専門誌における日本人論文は少ない。この状況を解決するために医学生の医学英語力を高めなければならない。

医学生は優秀なのでモチベーションさえあがれば世界的レベルの医学者に必要な英語力をつけることは可能である。しかし英語学習の重要性を認識するまでに時間がかかる。英語教員が英語の重要性を説いても医学生の心に届きにくい。専門分野の教員も英語教育に情熱を注ぐ余裕はない。

### 2.1 医学生のためのeラーニング教材開発

そこで、科研費 基盤研究 (B) を受け、科学研究費 (「医学部・薬学部・看護学部におけるESP教育のためのeラーニング教材の開発研究」基盤研究 (B) 代表者: 川越栄子) (平成20~22年度) を受けeラーニング教材を開発し、3大学医学科 (阪大・神大・大阪市大) 約200名の医学生に試用させた。

### 2.2 開発したeラーニング教材の内容

新たに開発したeラーニング教材に次の3点を盛り込んだ。

- 1) 速度力測定  
比較的簡単な医療記事を英文で読ませ、wpm (一分間に読める語彙数) を測定した。
- 2) 医学英語語彙力  
医学英語語彙3,000語を習得させるため、語彙のリストと共に、繰り返し語彙を覚えさせた。
- 3) 医学者からのメッセージ  
英語学習の重要性を世界的に活躍中の医学者

に語ってもらいeラーニング教材にした。

### 3.1 モチベーションアップのための医学者からのメッセージ

医学生が理想とする世界的な医学者に英語の重要性を語っていただきビデオに収録し、eラーニング教材として学生に視聴させて、感想を書かせた。

### 3.2 世界で活躍中の医学者からのメッセージ内容

医学生へのメッセージの内容は下記の6点である。

- 1) 医療のグローバル化と医療英語の必要性
- 2) 日本国内への移植手術導入に対する想い
- 3) 外国語を習得するのに大事なこと、心得
- 4) 外国との文化交流の醍醐味
- 5) 医療観光の重要性
- 6) 英語媒体の有効性

医療はグローバル化しており国際語である英語で診療を行うことは、今後ますます必要になってくることを力説され、英語力を学生時代に身につけておく事が必須であると説かれた。

ご自身は海外に移植を教えに行かれているが、今後移植手術を日本で行い海外から医療観光者を受け入れる準備中であり、日本経済にとって医療観光を推進していくことの重要性を示された。なお医療観光を推進していくためにも英語を自由に使えることが必要であることを示された。

しかし、アメリカ人のように話そうとする必要はなく「ジャパニーズイングリッシュ」でもよいからコミュニケーションをとろうとする姿勢が必要であること、また英語学習のための高価な教材を購入することは無意味でありNHKの語学番組だけで充分させるようになるとのアドバイスをいただいた。

英語でコミュニケーションをとることは、英語という言語を通して外国の文化に触れることでもあり、世界の様々な文化を知る醍醐味も味わえると語られた。単に専門の仕事のためのツールとしてだけでなく、異文化と接することで視野が広くなり心豊かになれるという先生のご経験からの非常に貴重な示唆

をいただいた。

英語を媒体にすれば世界が舞台になるので是非英語学習を頑張るよにとの励ましのメッセージであった。

#### 4. 学生の感想

3 大学医学科約 200 名の学生に上記メッセージ視聴後感想を書かせ e ラーニング教材を通して提出させた。

##### 4.1 感想の内容

学生の感想は次の 3 点に集約される。

- 1) 臨床・研究共に英語の必要性をしっかりと感じた。
- 2) 「ジャパニーズイングリッシュ」でも大丈夫という事で安心した。
- 3) 英語を通して多様な価値観や世界の情勢まで把握でき人間的に豊かになるということを学んだ。

##### 4.2 大学による特色

大学によって温度差があった。阪大生は研究者をめざし世界と戦おうという姿勢を持った学生が主流である。医学者をめざそうとする学生には、超一流の医学者からのメッセージは、特に心に深く残ったようである。一人の学生は下記のように書いている。

「僕は外科医になって日本のみならず海外でも英語で論文を発表できるぐらいの医師になりたいのでいまから英語に多く触れ、マスターしていきたいと思います。また、このような世界的にも権威のある先生の話が聞けることができる授業をとても嬉しく思います。」

1 年生から世界的権威者の講義を受ける事はできないが、このようなビデオであれば可能であり e ラーニング教材であれば繰り返し視聴することができるので、学生には他では得難い経験になった。

神大は今日本で一番注目される医学者山中伸哉先生を輩出しているが、研究者をめざす学生は半分もない。病院で勤務医になるか親のクリニックをつぐという学生も多く、阪大ほど世界に出ていこうという意気込みはない。このような神大生を表しているのが次の感想である。

「私は日本国内で働くつもりだったので、正直医学部に入学してから医学英語などの外国語はあまり熱心に勉強しなくてもいいのではないかと感じることもあったが、先生のお話を聞いて、それではだめだなと思いなおした。これからは、まだ自由に使える時間のある学生のうちに、日常会話と医学英語だけにはできるようにしっかりと学習していきたいと思う。」

大阪市大では、研究者への希望者はさらに減り臨

床医希望がほとんどである。研究者にならなくても英語が必要であるとの認識は、十分に高まった。次の感想が一例である。

「私は研究者になるつもりがないので、今までは論文を読む以外にほとんど英語を使うことはないのではないかと考えていましたが、今回先生のお話を聞いてこれからの医療の世界はよりグローバル化が進み外国からの患者さんも増えることが予想できますし、また逆に、海外で日本の患者さんがよりよい医療を受けることができるように紹介や提携などが頻繁に行われるような可能性もあると感じました。」

このように臨床医希望者の英語学習へのモチベーションも十分に高まった。

#### 5 おわりに

医学生が理想とする世界的な医学者からのメッセージは医学生の心の琴線を強烈に揺さぶり「英語の必要性」をしっかりと感じ取り、モチベーションを高める事が出来た。

新たに開発した e ラーニング教材を使用する事によって、医学英語力、速読力において大きな成果が出たが、それと同時に英語学習へのモチベーションを高められたことは非常に大きな成果であった。医学者からのメッセージを教室で一斉に視聴することもできたが、それよりも、繰り返し見ることが出来る e ラーニング教材によるモチベーションアップのためのメッセージは他分野でも使える大変有効な手段であると考えられる。

英語学習において「モチベーション」をあげる工夫が何よりも重要と考えているので、今回の試みの成果は非常に大きいと確信する。

#### 参考文献

- (1) Kawagoe, E.: "The Status of Medical English Education in Japan," English Education and English for Specific Purposes ed. by Wei-chen Chuang, pp. 93-104, Crane Publishing Co., Ltd., Taipei (2008).
- (2) Uemura, K.: "Medical English Education in Japan: Past, Present & Future." Journal of Medical English Education, pp.7-11. (2009).
- (3) 大学英語教育学会実態調査委員会: 『わが国の外国語・英語教育に関する実態の総合的研究—学生編—』 (2007).
- (4) 川越栄子: 「医学部・看護学部における ESP 教育の実態と将来像の系統的研究」平成 14 年度～16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究成果報告書 (課題番号 14580305) (2005).
- (5) コンピュータ利用教育協議会 外国語教育研究部会: 『ICT を活用した外国語教育』東京電機大学出版局, 東京 (2008).